まちづくり

交流拠点となる道の駅設置を

小林友明（新政策研究会）

問 道の駅は1993年の登録開始から本年4月で20年の節目を迎え、全国では1000箇所を突破して、地方自治体や道路利用者らの期待を受け着実に伸びて来ている。

本市では、本年3月に策定した行田市産業振興ビジョンの中で、国道125号バイパス沿道の土地利用の見直しをして、地域商圏を生かした広域交流拠点の整備をしていくと示している。

広域交流拠点の一つである道の駅は、観光目的の来訪者と市民との出会いの場となり、観光交流拠点にもなり得るので、観光客が増えている今、ぜひとも道の駅設置に取り組むべきと考えるがどうか。

答 産業振興ビジョンでは広域交流拠点の整備を戦略の一つと掲げており、これは、地域の物産販売や手作り市やアート工房など、開かれた場所を整備して新たな賑わいを創出するもので、道の駅を基本形態とした多機能な交流施設を想定している。

土地利用問題など様々な課題があるが、長期的な展望に立ち課題を解決しながら、実現に向け取り組んでいきたい。

問 様々な課題があるとのことだが、法的な課題以外に何か別の課題があるのか。

また、少しでも早く着手することが大事であって、長期的な展望というのは非常に曖昧で分かりにくい。具体的にはどのように考えているのか。

答 道の駅構想での課題は、示した地域が農業振興地域の真ん中に位置しているため、農業振興地域に関する法律及び農地法の関係2法令が最大の課題で他にはない。

また、地域交流拠点は今までにない新たな取り組みであり、先進的な施設として考えており、大きなプロジェクトであるという観点から、具体的な期間は明確に示せないが、中期から長期にかけての計画として位置づけている。

〔その他の主な質問〕

○下水道施設老朽化への対応

国道125号バイパス

福祉

発達障がいの早期発見・支援

二本柳妃佐子（公明党）

問 発達障がいとは、知的な発達の遅れを伴わない発達の遅れのこと。脳機能の障がいにより、通常その症状が幼少期に発現するとされ、早期から発達段階に応じた支援を行っていくことが重要である。

早期発見・支援に繋げる場として乳幼児健診があるが、検診内容の中で早期発見のための取り組みがされているのか。

また、幼稚園・保育所における気づきを支援につなげることが重要だが、本市が行っている巡回相談の内容と支援体制はどうなっているのか。

答 これまで乳幼児健診や乳幼児相談、言葉の相談、親子教室、心理発達相談などの事業を通して発達障がいの早期発見に努めてきた。さらに、平成24年度からは1歳6ヶ月児健診の問診票及び観察項目を発達障がいに着目した問診に見直し、充実を図ってきた。

また、巡回相談については、平成25年度、県主催の発達支援マネージャー育成研修を受講した保健師2名体制で実施しており、保育所や保護者などからの要望を受け、保育所や幼稚園を訪問し、対象児童の生活を見学し、保育士等と児童の適切な支援方法についての協議を行っている。

問 軽度の発達障がいは、幼稚園や保育所での共同生活を経験することにより、臨床的特徴が顕在化してくる。本市では、3歳児健診以降、就学時健診までの最も大事な時期に健診の機会がないが、県内の自治体では、5歳児健診を実施し、早期発見・支援に繋げている。本市においても実施を強く願うものだが、導入に向けた検討はされたのか。

答 5歳児健診の導入を含め、発見からその後の支援体制に関して検討を重ねてきたが、児童の生活の場である幼稚園や保育所、小中学校、専門機関等との相互連携が重要であるとの認識は得られたが、結論までには至っていない。

〔その他の主な質問〕

○妊婦歯科健診

公園施設

古代蓮の里の売店及び駐車場

新井教弘（黎明21）

問 古代蓮の里は、年々来園者数が増えてきているのに対し、園内での飲食店が少ないのが実態である。

公園内でのイベント時には、それに乗じて出店はあるが、普段は何も無い。朝早くから来園したお客さんに、軽い食事と、一時の休憩を兼ねた憩いの場となるように、来園者に対してもう少しサービスをする形で、売店を早い時間に開けるなど、売店の営業時間を考えてみては。古代蓮の里を管理している公益財団法人